

第3回次期堺市基本計画等策定検討懇話会 議事録

開催日 令和7年10月27日（月）

場 所 堺市役所 本館3階 大会議室

出席者 永藤市長、橋爪 紳也 委員（座長）、藤井 睦子 委員（副座長）、大津 愛 委員
渋谷 順 委員、武田 卓也 委員、徳山 美津恵 委員、松川 杏寧 委員

議 題 （1）堺市基本計画2030（素案）
（2）堺市基本計画2030のKPI

開会 午後3時00分

〈事務局〉

ただいまから、第3回次期堺市基本計画等策定検討懇話会を開催します。

開会にあたり、永藤市長よりご挨拶申し上げます。

〈永藤市長〉

皆様、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。本日はこれまでの懇話会で皆様から頂いた意見をもとに堺市基本計画2030の素案をまとめています。この素案と評価指標であるKPIについて協議したいと考えています。まだ素案の段階ですので忌憚のないご意見を頂きたいと思います。

二週間前には半年間にわたって開催された大阪・関西万博が大盛況のうちに閉会しました。堺市としてもこの期間中に春・夏・秋に主催行事を万博会場で開催したほか、国内外のパビリオンとも積極的に連携し市民や企業の皆様にも万博を舞台にご活躍いただきました。この貴重な経験を一過性で終わらせることなく、今後の堺の成長と発展につなげる必要があります。

今回はこれまでの懇話会でご意見を頂いた万博の契機を活かすことも意識して素案を作成しています。本日の皆様のご意見を参考にしながらより良い内容にしたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

〈事務局〉

それでは橋爪座長、これより議事進行をお願いいたします。

〈橋爪座長〉

議題（1）堺市基本計画2030（素案）

それでは次第に従い進めます。

「議題（1）堺市基本計画2030（素案）」について事務局より説明をお願いします。

〈事務局〉

【議題1】「堺市基本計画2030（素案）」資料1ページの目次をご参照ください。計画の構成は目次に記載のとおり全106ページです。本日は限られた時間の中ですので各項目の主な内容を中心に概略を説明します。

資料2ページをご参照ください。「計画策定について」として策定の目的は持続可能な都市経営の推進であること。計画の位置づけは市政運営の大方針であり本市の最上位計画であること。また現行計画である「堺市基本計画2025」の基本的な考え方や構造は引き継ぎつつ、より効果的な内容へと見直す形で策定することを記載しています。資料3ページには計画の構造や2026年度から2030年度までの5年間の計画期間とすることを記載しています。

資料4ページから6ページには計画の背景となる主な7つの社会潮流を記載しています。

資料7ページから22ページには「主要指標から見た本市の状況」として、人口動態や財政状況などのデータを掲載しています。

資料23ページから24ページには「都市像」として「未来を創るイノベティブ都市」を掲げることや都市像のもとにイノベティブに施策を推進する上で必要となる4つの基本姿勢「持続可能性」「多様性」「ともに創造」「Society5.0」について記載しています。

資料25ページには重点戦略である「堺の特色ある歴史文化」「人生100年時代の健康・福祉」「将来に希望が持てる子育て・教育」「人や企業を惹きつける都市魅力」「強くなやかな都市基盤」とその方向性を記載しています。

資料26ページから27ページには2035年度にめざすゴールとして「将来推計人口を上回る人口」「健康寿命」「事業従事者1人当たりの付加価値額」の3つのKGIを示しています。

資料28ページから31ページには市内各エリアの10年後の姿である空間像とその実現のために取り組むエリア戦略について堺市都市計画マスタープランなどの関連計画と整合を図る形で記載しています。

資料33ページから34ページには「計画の推進」として、計画を進める上での基本的な視点や手法となる「平和と人権の尊重」「不断の改革」「戦略的広報の推進」「利便性が高く信頼される区役所の実現」について記載しています。

資料35ページから105ページには5つの重点戦略に紐づく27の施策について、それぞれの現状・課題や取組の方向性を記載しています。施策ごとのKPIの欄は空欄ですが、この後の2つめの議題において別途意見をお伺いいたします。

資料106ページは「計画の進行管理」として、PDCAの考え方、KGI・KPI設定の考え方を記載しています。説明は以上です。

〈橋爪座長〉

ありがとうございました。それではご意見をお願いいたします。

（松川委員 挙手）

〈橋爪座長〉

松川委員、よろしくお願いします。

〈松川委員〉

まず全体的に文字量が多く読みづらさを感じました。基本計画は今後も継続的に参照されるものであり、人事異動なども繰り返される中でそれぞれが自分の業務にどのように取り組むべきか明確に理解できることが重要です。概要版での検討かもしれませんが、各施策は2～3ページの内容なので可能であれば見開き2ページでKPIまで含めて一目で把握できる構成が望ましいと感じました。

資料4ページの「社会潮流」に記載されている「デジタル化の加速」という表現について、「デジタル化」という言葉は一般的に紙資料の電子化など狭義の意味で理解されやすい側面があります。一方、本資料で意図されている内容がデジタルトランスフォーメーション（DX）やAI・IoT等の技術革新を含むより広義のデジタル活用への対応を指すものであれば、その趣旨が誤解なく伝わる表現に見直しをご検討いただければと感じました。

〈橋爪座長〉

ありがとうございました。事務局は意見ありますでしょうか。

〈事務局〉

本日は素案をお示ししていますが、概要版の作成なども今後進めたいと考えています。また「デジタル化」の表現についても改めて検討いたします。

〈橋爪座長〉

ありがとうございます。他にご意見はありますでしょうか。

（徳山委員 挙手）

〈橋爪座長〉

徳山委員、よろしくお願いします。

〈徳山委員〉

資料2ページ「計画策定の目的」は計画の冒頭部分でもあることから、特にブランディングを意識されるのであれば、都市のブランドイメージが向上し市民が地域に誇りや愛着を持つことが大事だと思います。市民が安心して暮らし続けるだけでなく、地域への誇りや愛着を持つことが持続可能な都市経営につながっていると考えています。そのため前半部分でももう少しそのことも記載いただきたいと思いますと感じました。

次に資料35ページからの重点戦略1「堺の特色ある歴史文化～Legacy～」についてです。千利休などの記載はありますが、現在世界的にお茶の文化は注目されており、お茶の生産地には多くのインバウンドが訪れています。世界的に抹茶の人気の高まる中、堺市はお茶の生産地ではありませんが誇るべき茶の湯文化があります。そのため茶の湯についてもう少しインバウンドを意識した記載を検討いただいても良いのではないかと感じました。

また資料37ページの取組の方向性「魅力ある地域資源を活かした優良な観光コンテンツの創出と充実」について、観光地を訪れると日本ではローカルな食だけでなく地域の人々が持つローカルな文化も観光資源として重要だと感じています。例えば銭湯など地域独自の文化も広く発信できるので、こうした文化も取り上げていただきたいと思います。そして取組の方向性「来訪者の満足度を高めるおもてなし環境の充実」は大阪・関西万博を契機に様々な国から多くの人が訪れる中で、多言語対応だけでなくハラル対応など更に踏み込んだ記載を検討いただきたいと思いますと感じました。

次に資料39ページの施策「戦略的な観光誘客による地域の活性化」は、非常に多様な連携が図られていて良いと感じました。一方で堺には宿泊施設が不足しているため、ホテルの誘致なども含め堺らしく観光消費額も高い観光コンテンツを検討いただきたいと思います。

〈橋爪座長〉

ありがとうございます。他にご意見はありますか。

（藤井副座長 挙手）

〈橋爪座長〉

藤井副座長、よろしくお願いします。

〈藤井副座長〉

市民の方や実際に計画を推進する職員の方が見るときに、堺市基本計画2025との違いが分かった方が良いと思います。そして先ほどの茶の湯の話にも関連しますが、計画全体を通して堺市ならではの取組が盛り込まれていることが重要だと感じます。もちろん一般的な都市政策があり他の政令市と似通った取組が含まれるのは当然ですが、その中でも堺市ならではの取組の記載があると市民の方にも理解されやすいのではないかと思います。全体版はもちろんですが特に概要版でそうした記載が必要ではないかと思っています。

また資料49ページからの施策「健康で長生きできる都市の実現」について堺市では11月に近畿大学病院が移転・開設予定であり、非常に充実した医療資源を有する圏域となります。医療の層が厚く、か

かりつけ医の体制もしっかり整っている地域であることは現状・課題には記載されていますが、取組の方向性にも堺市だからできる内容の記載があった方が良いのではないかと感じました。

そしてこどもに関する記載について資料4ページで「こどもまんなか社会」を社会潮流の変化としています。66ページの取組の方向性「こども・若者の意見聴取と施策への反映」ではあくまでこどもたちの成長や自立につながるような環境整備として意見を聞くと記載されています。しかし「こどもまんなか社会」の理念を踏まえると、こどもを社会の担い手や主体として位置づけ、意見をきちんと施策に反映させるという、より積極的な捉え方が必要ではないかと感じました。

資料68ページの取組の方向性について学力や英語力の向上など基本的な知識・技能は非常に重要ですが、現在の中央教育審議会での議論や次の学習指導要領がめざす方向性は基本的な知識・技能に加え、それを活用する力や他者と協働して問題を解決する力を小・中学校、高校を通じて授業の中で身につけることです。基礎学力や基礎的な知識・技能を身につけながら新しい教育へのステップを踏む部分の記載が少し抽象的であると感じます。例えば「こども堺学」のような非常に面白い取組がありますが、地域課題を解決する取組を活かすことやこどもが地域の課題について考える授業を展開するなど堺ならではの取組が試行できるのではないかと思います。こうした視点を踏まえ現在の内容をもう少しバージョンアップすると良いのではないかと感じました。

〈橋爪座長〉

ありがとうございます。他にご意見はありますでしょうか。

(渋谷委員 挙手)

〈橋爪座長〉

渋谷委員、よろしくお願いします。

〈渋谷委員〉

このような計画ではKGIが非常に重要だと考えています。人口や健康寿命については良いと思います。一方で「事業従事者1人当たりの付加価値額」は今回の目標値が2035年で577万円と設定されていますが、2021年は467万円で現行計画の資料だと2016年は508万円でした。2021年はコロナ禍の影響を受けた数字だと理解できますが、現在はコロナ禍以前に近い水準まで回復しており、更に物価上昇分を考慮すると2035年の577万円という目標はイノバティブではないと感じます。今回577万円に設定した根拠とロジックモデルがあれば教えていただきたいと思います。

〈事務局〉

577万円という目標値は政府のGDP成長予測に基づき、付加価値が同程度は伸びることを前提に算定しています。また直近の数値は2021年度の経済センサス活動調査によるもので、コロナ禍の影響でやや低下していますが、そこから少なくともGDP成長予測のペースで付加価値額を伸ばすことをめざした数値として設定しています。

〈渋谷委員〉

ありがとうございます。堺市として設定したKGIがあり、それを達成するための施策があって、だからこの経済的指標につながるというようにKGIと施策がしっかりと紐付いていることが非常に重要です。その点が分かって良いのではないかと感じました。

〈橋爪座長〉

ありがとうございます。他にご意見はありますでしょうか。

(松川委員 挙手)

〈橋爪座長〉

松川委員、よろしくお願いします。

〈松川委員〉

災害はこれからも起こり続けますし南海トラフ巨大地震も高い確率で起こるとされています。こうした状況で発災後に行政だけで個々の市民の生活再建をすべて支援することは困難です。そのため福祉や士業関係者など様々な民間の力も借りながら市が生活を立て直す体制を事前に整えておかなければ、災害が起こってからでは絶対に上手くいかないと思います。市民のセンシティブな個人情報を行政だけが抱えていてもどうしようもなく、信頼できる民間団体と情報を共有できる場やシステムを事前に整備し、情報を共有することが必要です。現場に出向いた民間団体が個々の生活を支援し、その情報を共有の場に戻した上で行政がその情報を集約するなど、市内部だけではなく外部ともつながるような体制整備について触れていただきたいと思います。

もう1つは資料104～105ページの施策「犯罪のない安心して暮らせる地域社会の実現」についてです。セーフティさかいの取組では特に性犯罪・性暴力のない社会をめざすということで犯罪が起こった後に被害者をどのようにケアするかについて詳しく書かれています。しかし犯罪は起こらない方が望ましいため犯罪を未然に防ぐための取組についてもう少し記載していただきたいと思います。例えばこうした問題がより多くの人に認識される教育のあり方や福祉分野などでも具体的な施策につながる取組もあるのではないかと思います。

〈橋爪座長〉

ありがとうございます。他にご意見はありますでしょうか。

(武田委員 挙手)

〈橋爪座長〉

武田委員、よろしくお願いします。

〈武田委員〉

福祉について、堺市はダブルケアの相談窓口のような特徴的な取組をされていますがその部分がもう少し見えると良いと思います。また資料56ページの取組の方向性「介護サービスの充実・強化」について、介護人材の確保が重要な課題であることは良く理解できます。その中で「介護人材の定着」という言葉はありますが、「介護人材の確保」は課題には記載されている一方で取組の方向性には触れられていませんので、この点は記載した方が良いのではないかと感じました。

また認知症や障害児の方の家族支援について記載がありますが、それ以外にも家族支援が必要なケースは多くあります。例えば脳梗塞で片麻痺となった方を支援している家族などもいらっしゃいますので、こうした方々も含めて家族支援は記載した方が良いのではないかと思います。

〈橋爪座長〉

ありがとうございます。他にご意見はありますでしょうか。

(大津委員 挙手)

〈橋爪座長〉

大津委員、よろしくお願いします。

〈大津委員〉

私からは2点ございます。まずKPI設定や枠組みはとても良いと思いますが、福祉や人口減少対策などの施策は数年間では目標達成が難しい指標もあるのではないかと感じます。そこでロードマップや段階的な目標を分かりやすく示すことで、仕込みの時期も含めて皆様に認識してもらえるのではないかと思います。

もう1点は高い目標値としてKPIを設定することは素晴らしいですが、逆に達成しやすい目標を設定する指標もあると良いと思います。その場合はモラルハザードが起こらない工夫が必要だと思います。

〈橋爪座長〉

ありがとうございます。他にご意見はありますでしょうか。

(徳山委員 挙手)

〈橋爪座長〉

徳山委員、よろしくお願いします。

〈徳山委員〉

重点戦略4「人や企業を惹きつける都市魅力～Attractive～」の施策で気になったのが、資料79ページの取組の方向性「都市や暮らしにイノベーションを生み出すスマートシティの推進」の1つめの記載です。「分野を横断した効果を創出するため、各プロジェクトをスピード感を持って進めプロジェクト間の相互連携を強化」とありますが、これは行政内部か外部の話なのか分かりにくいと感じました。また「各プロジェクト間」という表現が抽象的であるため、もう少し具体化した方が良いと思います。

また資料81ページの取組の方向性「便利・快適な移動環境の構築」では移動環境の構築について強調されていますが、「便利・快適」という表現は少し古く感じます。今後取組を進めるのであれば「便利・快適」に加えて、環境負荷を低減するという要素も盛り込んでいただきたいと思います。

資料90ページの農業について「堺のめぐみ」や「泉州さかい育ち」のブランド価値を高めることが大切です。ブランド価値の向上は農業の収入面など農業振興につながるもので重要だと思います。

〈橋爪座長〉

ありがとうございました。事務局から意見ありますでしょうか。

〈事務局〉

様々な角度からご意見を頂きました。計画の見やすさについてご意見がございましたが、これから概要版を並行してまとめていく上でその点を意識して整理したいと思います。更に観光分野などにおいて堺ならではの取組に関するご意見もありましたので、その部分についても記載内容を見直したいと考えています。

〈橋爪座長〉

計画素案のレイアウトやデザインについては現行計画を踏襲しているため、現行計画にも同様のことが言えるのかもしれませんが、私からも意見を申し上げます。現行計画の骨格はほぼ踏襲されており、社会経済情勢を的確に捉え将来にわたって持続可能な都市経営を推進する目的は現行計画と同様に最も重要な位置づけです。特に都市経営という言葉が盛り込まれている点が特徴だと思います。

少し気になるのはデジタル化に関するAIの記載が生成AIだけに留まっている点です。AIの概念はもう少し広く捉えた方が良いのではないかと思います。もう1点は重点戦略の記載に「Attractive」という言葉

があります。他の柱は名詞形ですが「Attractive」だけは形容詞なので、全体のバランスから表現を工夫する方が良いと思いました。それでは市長からご意見をお願いいたします。

〈永藤市長〉

大変貴重なご意見を頂きました。私も実際に職員と何度も協議を重ね、この場に計画素案をお示ししています。先ほど皆様から頂いたご意見について私の考えもお伝えします。まず計画の見やすさについては重要だと思います。どれほど良い計画であっても見にくければ内容が理解されず、手にも取ってもらえません。「見開きで2ページ程度にまとめるとより良いのではないか」とのご意見を頂きました。先ほど橋爪座長からもご発言があったとおり、計画素案は現計画のフォーマットを踏襲していますが、より見やすくするためにはどうすべきか検討したいと思います。

そして2つめは堺らしさをどう盛り込むかという点です。この点は第1回の懇話会でも皆様からご意見頂き庁内でも議論しました。堺らしい要素は盛り込まれていますが、ご意見頂いたように例えばダブルケアといった特徴的な取組が十分に反映できていないのではないかと考えます。私たちが日々の業務では外から見れば特徴的な取組であっても当たり前のように進めていることが多いと感じます。今回の基本計画の策定は私たちにとても各事業を見つめ直す良いきっかけでもありますので、より堺らしい計画になればと思います。そして取組の方向性の記載に関して基本計画は最上位の計画であるため、市政運営の大方針として基本計画の下には各分野ごとの計画やビジョン、方針があります。基本計画の下に位置する個別計画の内容を整理した上で基本計画に盛り込む内容を検討したいと考えています。例えばご意見頂いた茶の湯は特に力を入れています。堺は千利休が生まれた地であり、茶の湯は今の日本人の精神性や美意識に大きく影響を与えています。万博でも茶の湯をモチーフにした多くの取組があり、海外の要人をお迎えする際にも茶の湯でもてなしたということもありました。万博会場内でも複数の茶室が設けられ、堺の特性を活かす上でも茶の湯は非常に重要だと考えています。現在策定を進めている文化芸術推進計画においても茶の湯を特に前に出して記載しています。

大変貴重なご意見を頂きありがとうございます。皆様から頂いたご意見はあくまで一例だと思います。全体を見渡す中で今後ブランディングも含めて堺市として更に高めたい、もしくは発信したいことについて再考したいと思います。またご指摘頂いた部分だけに留まらず、その趣旨を踏まえてもう一度全体を見渡し検討します。

〈橋爪座長〉

ありがとうございました。それでは続きまして議題の2つめに移りたいと思います。

〈橋爪座長〉

議題（2）堺市基本計画 2030 の KPI

「議題（2）堺市基本計画2030のKPI」について説明をお願いいたします。

〈事務局〉

それでは、資料の【議題(2)】「堺市基本計画2030のKPI」をご参照ください。資料では重点戦略に掲げる27の施策ごとに第1候補の指標とその説明、出典、指標の設定理由、現状値と、2030年度に達成をめざす目標値、ありたい姿を踏まえた目標値の考え方、第1候補の指標以外に検討した主な指標と、第1候補としない理由を整理しています。

続いて10ページをご参照ください。表の欄外に参考としてKPI設定の考え方を記載しています。KPIは一部例外の施策がありますが、重点戦略の施策ごとに1つのKPIを設定することを基本としています。

また指標の設定については定量的な指標であること、できる限り毎年度の数値を把握できる指標であること、本市が主体的に把握できる指標であること、数値の変動要因を把握、分析できる指標であること、外部要因の影響が大きすぎない指標であることを主な視点として検討し、目標値はありたい姿を踏まえた上で、計画期間の施策推進により実現可能な目標値を設定しています。

なお、第1候補となる指標は全29指標ございますが、そのうち現行計画に掲げているKPIを引き継いでいる指標は10指標、残りの19指標は今回新たな指標として、KPIの候補としています。説明は以上です。

〈橋爪座長〉

ありがとうございました。それではご意見をお願いいたします。

(松川委員 挙手)

〈橋爪座長〉

松川委員、よろしくお願いします。

〈松川委員〉

まず全体を通してですが各指標がどの施策に対して設定され、その理由は何か、また従来の指標を踏襲したものと変更した場合はその理由が分かるようになっていてKPIの資料として非常に良いと思います。ただ実際に基本計画に組み込まれる場合、おそらく理由の部分は削られてしまうと思います。しかし中長期的な計画であるため、計画でKPIを設定した理由や背景が分からないと、人が入れ替わったときに設定理由等が分からず、結果として計画に込めた本質や思いがきちんと伝わらないと思いますので、その点が分かるように示していただきたいと思います。

〈橋爪座長〉

ありがとうございます。他にご意見はありますか。

(徳山委員 挙手)

〈橋爪座長〉

徳山委員、よろしくお願いします。

〈徳山委員〉

具体的なところで気になったのは観光です。施策「戦略的な観光誘客による地域の活性化」の指標「1人当たりの市内観光消費額」は宿泊代に依存します。しかし堺市には宿泊施設が少なくビジネスホテルの宿泊代で算出すると、そこと連動した観光消費額になってしまう恐れがあります。そのため少し違う視点で考えると1人当たりの市内観光消費額よりも観光消費の総額で年間何%ずつ伸ばすという方が分かりやすいと思います。そうすれば人数を増やすのか、消費額を増やすのかについて両方のバランスを確認できるので観光消費総額の方が良いのではないかと思います。

〈橋爪座長〉

ありがとうございます。他にご意見はありますか。

(渋谷委員 挙手)

〈橋爪座長〉

渋谷委員、よろしくお願いします。

〈渋谷委員〉

ご存知のとおり福岡市は市長をはじめとしてイノベーション創出に非常に力を入れており、その結果として新しくカルチャーが生まれて観光が大きく伸びています。また福岡市の産業の約9割はサービス産業が占めていると言われていますが、堺市の状況を調べると2017年のデータではサービス産業の割合が61%と記載されていました。都市経営ではどの領域でどう伸ばすかが重要です。例えば神戸市は一見すると伸びているように見えていますが製造業が圧倒的に強く、その点について神戸市の方々は非常に悩まれておりサービス産業の消費や付加価値を増やしたいとおっしゃっていました。堺市の場合はどこでどう伸ばすのが指標では見えにくいと感じました。

〈橋爪座長〉

ありがとうございます。他にご意見はありますか。

(藤井副座長 挙手)

〈橋爪座長〉

藤井副座長、よろしくお願いします。

〈藤井副座長〉

施策ごとに1つのKPIが設定されていますが、資料5ページの施策「多様性を尊重した教育の推進」の指標は「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うと答えた児童生徒の割合」です。施策の代表指標として選定に大変ご苦労されたと思います。ただこの指標は多様性だけでなく、先ほど申し上げた「授業での議論で自分が意見を発表しその授業が楽しいと思うか」という視点にも関連しており、探究学習が授業でどの程度浸透しているかを測るものでもあると思います。指標の中には施策と代表指標が合致している場合と、合致してはいるが代表指標はこれしかないという事情のものがあると思います。そのためなぜそのKPIを選んだのかについての分かりやすい説明や場合によっては参考指標のようなものを設定しても良いのではないかと思います。

〈橋爪座長〉

ありがとうございます。他にご意見はありますでしょうか。

(松川委員 挙手)

〈橋爪座長〉

松川委員、よろしくお願いします。

〈松川委員〉

まず施策「自助・共助・公助のバランスのとれた防災・減災力の向上」ではKPIが2つ設定されています。以前の懇話会でハード面とソフト面の両方の指標が必要との意見を踏まえたものだ認識しており、その点は非常に良いと感じました。一方でソフト面での指標「地区防災計画の策定率」については地区防災計画は法律で定められた計画であり、堺市の地域防災計画の下に位置づけられています。様式に従って作成する必要があるため、ハードルが高く取扱いが限られてしまう側面があります。そのため地域によってはあえて地区防災計画ではなく、より柔軟にその地域の実情に沿った防災計画を独自に作成しているところもあります。また地区防災計画が策定されていても、それがどの程度実効性があるのかが重要であり、策定しただけで終わってしまっただけでは意味がありません。計画を踏まえて訓練を実施できているかなども重要です。こうした地域の取組は地域に身近な区役所が詳しく把握していると思います。

もう1つは施策「犯罪のない安心して暮らせる地域社会の実現」についてです。指標として「大阪重点犯罪認知件数」を挙げられていますが、性犯罪・特殊詐欺・自動車関連犯罪の3つを合計する意図が分かりにくいと感じました。3つの重点犯罪認知件数をKPIとすること自体は良いと思いますが、合計せず3つに分けても良いのではないかと思います。また特殊詐欺は件数だけではなく、被害金額も大阪では非常に高く、被害金額を示すことは危機感を正しく持つてもらうことにもつながると思います。被害金額を指標に設定すると件数が減れば被害金額も減るはずですが、大阪重点犯罪認知件数をKPIとすることは変わらないのですが、示し方を工夫することでより効果が見込めるのであればご検討いただければと思います。

指標「イノベーション創出につながる事業数」は「新事業の創出または技術課題の解決や高度な研究開発につながった事業数」をどのように評価しているのかが分かりにくいと感じます。この点はもう一度ご検討いただいた方が良くと思いました。

〈橋爪座長〉

ありがとうございます。他にご意見はありますでしょうか。

（大津委員 挙手）

〈橋爪座長〉

大津委員、よろしくお願いします。

〈大津委員〉

都市経営について経営的な視点で見たときにどの施策も非常に重要ですが、やはりいろいろな取組を進めるとスピードが落ちることが懸念されます。そのため堺市が全国で圧倒的に勝てる分野を1つでも確立することが重要であり、ここだけは絶対に勝ち切るような強みを持つことが必要だと考えます。またどの自治体にも共通することですが指標やその設定理由だけではなく、その背景として専門分野について学ぶ環境を整えることが重要だと思います。

指標「福祉施設から一般就労への移行者数」についてはその数だけでなく、実際にどれくらいの方が継続して就労しているのかも重要だと感じますので、就労の継続状況などもあれば良いと思います。

〈橋爪座長〉

ありがとうございます。他にご意見はありますでしょうか。

（徳山委員 挙手）

〈橋爪座長〉

徳山委員、よろしくお願いします。

〈徳山委員〉

指標「サイクルシティとしての都市魅力の認知度」について心理的なことを問う際は複数の質問項目を総合指標としてまとめる方が良いのではないかと考えます。1つの質問項目を指標にすると結果がぶれる可能性もあるため総合指標とする方が良くと思いました。

〈橋爪座長〉

ありがとうございます。他にご意見はありますでしょうか。

（武田委員 挙手）

〈橋爪座長〉

武田委員、よろしくお願いします。

〈武田委員〉

施策「暮らしを支える包括的な支援と地域福祉の充実」の指標「生活や健康等の悩みがあるときの相談窓口を知っていると答えた人の割合」について実際に相談窓口につながることを重要だという考えで設定されたのだと思います。ただ現状値48.9%から2030年度には80%へ引き上げることを考えると、若い層や男性は昼間働いている方が多く実際に相談窓口を認知しているかどうかが不明です。本当に80%を達成できるのか5年間で30%以上を増加させることが可能なのか懸念があります。

また先ほどご意見にもありましたが指標「福祉施設から一般就労への移行者数」について就労者数と合わせてどれくらいの方が継続して就労されているのかも重要だと思います。

〈橋爪座長〉

ありがとうございました。事務局から意見ありますでしょうか。

〈事務局〉

ありがとうございます。KPIは各施策1つを基本としており、指標そのものが施策全体をカバーするのはなかなか難しいところもある中で設定しています。ただご指摘のとおりカバーしきれていないところが大きい指標もあると思いますので、どのように補足的に見ていくか、また基本計画のKPIだけでなく各施策に紐づく個別計画においても様々な指標が設定されていますので、それらも含めて総合的に把握できるよう検討したいと思います。

〈橋爪座長〉

では市長、全体についてご意見をお願いいたします。

〈永藤市長〉

ありがとうございます。KPIの指標や目標値の設定については庁内でも議論を重ねてきました。皆様から頂いたご意見を含め特に重要だと考える点が大きく3つあります。1つは先ほどのKGIとKPI、そして各施策のつながりをどのように発信するかという点です。資料にはその理由も含めて記載していますが、基本計

画で細かく記載できない場合には職員をはじめ多くの方に結びつきをしっかりと分かっていただけるよう工夫が必要です。

そして基本的には1施策につき1つのKPIを代表指標として設定していますが、実際には1施策に2つのKPIを設定している場合もあります。1つだけでは趣旨が十分に伝わりにくいのであれば参考指標を設定するのも良いと思いますが、参考指標を設定するかどうかの判断も必要ですので、一度整理をした上で施策間のつながりを踏まえ検討したいと考えています。

もう1つは継続性です。KPIの中には取組の初期段階の成果として入口の部分に焦点を当てているものもありますが、入口だけではなくその後の経過をどう見るのかも重要です。先ほどお伝えしたように最上位の基本計画に紐づいた個別計画が複数あります。基本計画では代表的なKPIを掲げていますが、下位の分野別計画ではより細かい設定が可能です。そのため基本計画とは別で継続的な状況を把握することもできるのではないかと思います。

基本計画の検討と同時に庁内でブランディングをもう一度見つめ直しています。堺市には非常に長い歴史がありますが、改めて堺市は今後どのような都市として見られたいのか、何を武器にして都市間競争に打ち勝つのかについて整理したいと考えています。

指標「生活や健康等の悩みがあるときの相談窓口を知っていると答えた人の割合」について現状48.9%を5年後に80%へ引き上げる目標は私が特にこだわったところです。当初のKPIの案では現状値から毎年数%ずつ増やすものが多く、行政としては地道な積み上げでやりがいがあることだと思いますが、一方で5年後も相談窓口を知らない人が50%もいる都市では良くないと考えています。高齢者や障害がある方など不安を抱える方にはまず相談して欲しいと思います。相談につながらなければいくら施策のメニューを用意しても十分な効果は得られません。本来は100%が望ましいですが現実的には難しいため、まずは2030年度に80%をめざすという目標はチャレンジングではありますが、何とか改善したいという思いで設定しています。

〈橋爪座長〉

KPIはあくまでもプロセスの指標ですから、目標を高く掲げ、数値も幅があって良いと思います。KPIを毎年確認し想定通り進まなければ施策を見直し、達成できれば目標値を更に高く設定するなど中間段階で柔軟に見直しても良いと思います。また行政だけでは達成が難しい目標値も含まれていますので、公民が連携し市民の方々と一緒に取り組むべきこともあると思います。

本日の議題として2件以上でございました。全体を通して、追加でご意見があればお願いします。

(渋谷委員 挙手)

〈橋爪座長〉

渋谷委員、よろしくお願いします。

〈渋谷委員〉

チャレンジングという意味では指標「my door OSAKAの利用登録者数」について目標値の60,000人は2030年度とはいえ非常に難しい数字だと感じます。サービス開始から約1年が経過し現在の登録者数は約2,000人です。この状況を見ると市民の方々にインセンティブがなければ達成は難しいと思われます。ただこの取組は行政効率の向上や市民の方々に今までとは少し違う社会インフラを活用していただくという観点からも非常に重要です。このようなイノベティブな指標もいくつかありましたのでぜひ頑張りたいと思います。

〈橋爪座長〉

ありがとうございます。他にご意見はありますでしょうか。

(藤井副座長 挙手)

〈橋爪座長〉

藤井副座長、よろしくお願いします。

〈藤井副座長〉

第1回懇話会でも申し上げましたが、全体としてデータをしっかり把握・管理し、そのデータに基づいて施策を設定されており、今回も非常に丁寧に積み上げをされていると思います。市役所や関係事業者が施策を重点的に実行する際に重要なことは財源や組織体制の裏付けです。本来はすべての施策を均等に展開すべきですが、ぜひこの計画をベースにどの施策を重点化するかを明確にすることが今後の計画の推進力につながるのではないかと考えています。

〈橋爪座長〉

ありがとうございます。他にご意見はありますでしょうか。

(松川委員 挙手)

〈橋爪座長〉

松川委員、よろしくお願いします。

〈松川委員〉

この計画は継続的に活用し、みんなで頑張って取り組むためのものです。より良い内容にするためにはKPIとの関係を分かりやすく示すことが重要です。現状でもしっかり記載されていますが、基本計画の素案にある取組の方向性を見直し、各施策の取組がどのようにこのKPIにつながっているのかを整理していただけたらと思います。

〈橋爪座長〉

ありがとうございます。他にご意見はありますか。

(徳山委員 挙手)

〈橋爪座長〉

徳山委員、よろしくお願いします。

〈徳山委員〉

基本計画はしっかり作り込まれていると感じました。だからこそ読んで初めて知ったことが多く、こんなに頑張っているのに十分に伝わっていないのはもったいないと思います。今後ブランディングをしっかりと考えていただくということですが、やはり良い施策や市として力を入れる取組はもっと大きく発信しても良いと考えます。そういう意味でも発信にも力を入れていただきたいと思います。

〈橋爪座長〉

ありがとうございます。他にご意見はありますか。

(大津委員 挙手)

〈橋爪座長〉

大津委員、よろしくお願いします。

〈大津委員〉

私自身は計画策定に携わるのは初めてだったのでとても驚いたのですが、例えば単にデジタルシフトだけを進めるとその後に雇用が減少し、別の課題につながってしまうといったことがしっかりと計算した上で計画を組まれていると感じました。ただその連動をどのように考えているのか分かりにくく、読み込んでいく中で気づく部分もあります。この計画は非常にとても素晴らしいので、その過程がより分かるようになると良いと思いました。

〈橋爪座長〉

ありがとうございます。他にご意見はありますでしょうか。

（武田委員 挙手）

〈橋爪座長〉

武田委員、よろしくお願いします。

〈武田委員〉

市長の最後の話をお聞して本当に思いが伝わりました。達成が難しい目標もありますが、それに向かって取り組む姿勢や丁寧に考え実践する強い思いを感じました。私自身も勉強させていただきました。ありがとうございました。

〈橋爪座長〉

ありがとうございます。

本日の議事、以上とさせていただきます。それでは事務局に進行をお返しします。

〈事務局〉

委員の皆様、ご議論いただき誠にありがとうございました。本日は多数のご意見や我々にとって新たな気づきとなる様々なご提案、改善案を頂戴したと考えています。改めて事務局で整理の上、関係部局とも再度協議し内容の見直しを進めます。

なお委員の皆様が一堂にお集まりいただき議論いただく場は今回が最後です。今後も必要に応じて各委員の皆様に個別にご意見を伺いながら進めていければと考えています。引き続きご協力の程よろしくお願いいたします。また計画案を整理でき次第、改めて委員の皆様にご報告いたします。それでは以上をもちまして本日の懇話会を閉会いたします。ありがとうございました。

開会 午後4時30分頃